

みやぎGPNニュース



今回の
内容

- 話題提供 12月は、「吸収源として森を考える」
- グリーン購入セミナー「新循環サーキュラーエコノミー」ご案内
- みやぎのグリーン購入活動「みやぎ生活協同組合」様

2021.12

Vol.19

■「これまで」にとらわれずに考え、行動する

事務局長 海藤節生 (NPO法人水守の郷・セヶ宿理事長)

■ SDGs達成度2020

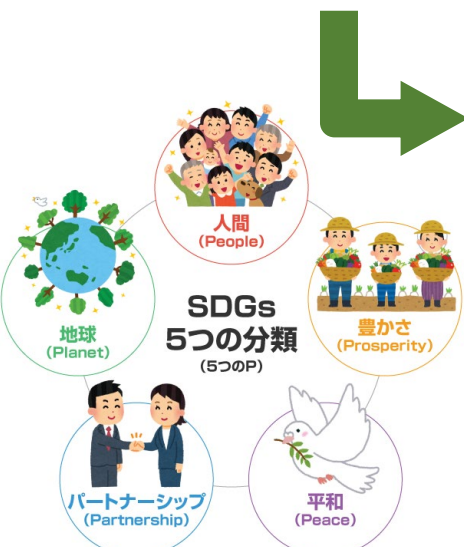
2020年SDGsの取組状況が発表されました。達成度ランキングは、世界第18位と2年連続で順位を落としています。日本について見てみると、現時点で達成している目標は、緑色で示されている「目標4質の高い教育をみんなに」「目標9産業と技術革新の基盤を作ろう」「目標16平和と公正をすべての人に」の3つに留まります。課題が残る黄色が5個、重要な課題が残るオレンジが4個、**主な課題が残る赤**が5個。それでも辛うじて「目標5ジェンダー平等」と「目標17パートナーシップで達成しよう」に関しては「適度に改善」に向けて歩んでいます。特に懸念されているのが、サステナビリティのベースとなる「目標13~15」が改善に向かっていない又は悪化していることです。「停滞」しているとされる「目標13気候変動に具体的な対策を」については、化石燃料の燃焼やセメント生産による二酸化炭素の排出量・輸入に含まれる二酸化炭素の排出量増加が、「目標14の海の豊かさを守ろう」については、海洋健康指数の低下・魚の過剰摂取などによる海洋資源の減少がその理由とされています。2021年驚くべきことに「悪化」に転じている「目標15陸の豊かさを守ろう」。悪化の要因は「陸と淡水域の平均面積」「レッドリスト」の2つとされ、森林伐採、地球温暖化、砂漠化、化学肥料や薬品による土壌・水質汚染、レッドリスト絶滅の可能性のある野生動物採取や乱獲、外来種の放出と理由は明らかになっています。改めて課題解決に向け「SDGs行動の10年」今、正念場を迎えています。



Notes: The full title of Goal 2 "Zero Hunger" is "End hunger, achieve food security and improved nutrition and promote sustainable agriculture".
The full title of each SDG is available here: <https://sustainabledevelopment.un.org/topics/sustainabledevelopmentgoals>

■ 吸収源の役割と現状

日本の大手企業は、2050年カーボンニュートラル達成に向けロードマップを作製するなど積極的に取組みを始めました。みやぎグリーン購入ネットワークとしても「グリーン購入」という切り口から温室効果ガスについて考え消費者の行動によって少しでもこの課題に対峙していきたいと考えています。温暖化対策としては、省エネ(省エネ製品への買い替え、省エネ行動の推進)・再エネ(再生可能エネルギーの導入、再エネ100宣言等)により排出量を減らすことはもちろんですが、炭素の循環を考えていく場合、その役割を担う吸収源の役割と現状を知る必要があります。縄文時代、落葉広葉樹帯が1年以上日本国土の90%以上を占め、我々の祖先たちは森を守り自然と共に生きてきました。海藻も吸収源としてとても重要な存在です。ブルーカーボンプロジェクトという取組みも始まっています。



■参加者募集：グリーン購入セミナーを実施します！

環境基本法にのっとり新たに「プラスチックリサイクル法」が施行されます。オールみやぎで行動しグリーン購入を推進して参りましょう！

日時：2022年2月25日（金）13時00分～17時00分

場所：仙台市市民活動サポートセンター 6Fセミナーホール 定員50名

主催 みやぎグリーン購入ネットワーク

共催 宮城県・一般社団法人廃棄物資源循環学会東北支部

話題提供 環境省 環境再生・資源循環局 総務課リサイクル推進室

室長補佐 江藤文香様

「新プラスチック法で何がどう変わるのか？」

講演者 東北大学大学院環境科学研究科 准教授 齋藤優子様

「サーキュラーエコノミー～循環型社会への道筋と課題」

事例報告 株式会社ヨコタ東北 総務部係長 阿部祐見様

ワンウェイプラスチックパッケージの新循環「オリパラからの報告」

森を吸収源として捉え、しっかり使う 事務局長 海藤節生

「グリーン購入から考えるカーボンオフセット」

情報交換会

■ **みやぎのグリーン購入活動：みやぎ生活協同組合 一人ひとりが心をつなぎ、支えあう豊かな社会を目指して**

12月は、SDGs17の目標すべてにつながる活動を広く実践し地域に根差した活動を展開している「みやぎ生協」さんの取り組みをご紹介します。「低炭素社会、循環型社会、自然と共生した社会づくり」この3つの視点で展開する事業は、持続可能な社会に向けた柱となるもので以下に具体的なアクションを引用させていただきました。

- 1) 生協事業におけるCO2の総量削減として①省エネ機器の導入 ②店舗等に太陽光パネルを設置し再生可能エネルギーを調達 ③BDF車輛導入に等による廃食油の循環
- 2) 事業からの廃棄物の削減・再資源化①事業及び家庭ごみの減量のための発生抑制(簡易包装の採用、販売方法の工夫等 ②レジポリ袋の削減・回収(牛乳紙パック、アルミ缶、ペットボトル、卵パック、トレイ、古紙、廃食油、小型家電、共同購入チラシの回収、ハンガー再利用、)による再利用、再生利用、熱回収などを推進
- 3) 環境に配慮した地域社会の構築 市民[メンバー(組合員)・生活者]、市民団体、自治体、行政など環境に配慮した地域社会構築の推進
- 4) 商品事業における環境配慮①みやぎ生協・コープふくしまの産直品・地産地消商品 ②環境配慮商品の取り扱い強化

みやぎ生協さんのHP
☞こちらからどうぞ



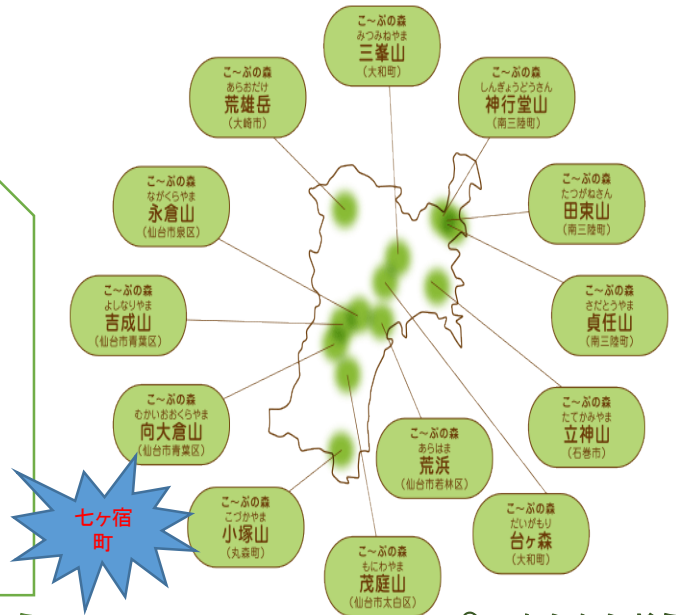
単にモノを販売するだけではなく扱う商品にこだわり、使い終わった後のことまで考えてくれるのでとてもありがたく感じています。私事ですが、これまで30分も車を走らせないとお買い物が出来なかった七ヶ宿町にも、コンビニエンスストアと併設し「みやぎ生協」さんが店舗を開設し、過疎の暮らしを支えてくれています。まさに暮らしの守り手！「みやぎ生協」さんは社会貢献活動にも精力的に取り組んでいますのでこの記事をご覧になった方は「みやぎ生協」さんのHPをご覧ください。

□「みやぎニュースレターNO19」今回のテーマは、どうやら森につながってきたようです。持続可能な未来に向けて多様な活動を実践してきた「みやぎ生協」さんは、森を自分たちの手で作り、育てる活動を1992年から続けています。この「こ〜ぶの森」は、宮城県内13か所、61ヘクタールに広がっているそうです。そして14か所目の森が間もなく誕生します。



2021年10月12日(火)七ヶ宿町役場において、みやぎ生活協同組合大越代表理事、七ヶ宿町小関町長の間で「七ヶ宿町有林分収造林契約締結式」が行われ、このたび14番目の森「こ〜ぶの森七ヶ宿」として宮城の自然と緑を豊かにする活動を進めることになりました。

七ヶ宿町は面積の約9割が森林に囲まれており、七ヶ宿ダムを保有する水源の町として適切に森林を管理することとしています。その中でも、伐ったら植える循環型の森林管理を推進しております。「こ〜ぶの森七ヶ宿」には抵抗性アカマツやアオダモ、イタヤカエデなど計10種類4,800本を植樹します。今後、森の保全活動や観察会、体験会を計画してまいります。



■ **情報発信 (毎週更新) えしかるちゃんと一緒に考えよう!**

☞こちらからどうぞ



世界の平和を願う国連が、地球上の誰一人として取り残さない (leave no one behind) 社会実現を誓ったSDGs。
SDGsについて理解を深め、あなたも社会を変える！未来を変える！チェンジメーカーのひとりとして一緒に行動していきましょう。

みやぎGPN公認キャラクター！えしかるちゃん



■ **発行・編集 みやぎグリーン購入ネットワーク事務局**

〒981-3121 仙台市泉区上谷刈三丁目10-6 TEL.022-218-5451 FAX.022-375-7797

Email : m-green@miyagigpn.net ホームページ : <http://www.miyagigpn.net/>

■ **SDGs 出前講座開催中** ご希望の方は、みやぎグリーン購入ネットワーク事務局までご連絡ください。
SDGsと企業活動を結びつけることで、今後の経営方針が明確に見えてきます。時間、費用などは、お気軽に事務局にご相談ください。

